

附属書 A

APEC 地域における経済的・金融的・社会的包摂性の促進に関する行動アジェンダ

平成 29 年 11 月 11 日

外務省・経済産業省

1. 前文

- APEC首脳は、アジア太平洋地域において一層必要となっている効果的な経済的・金融的・社会的包摂性を再度強調する。我々の地域は、根強い不平等、失業、持続的な貧困、技術進歩の負の側面といった包摂に関する課題に直面している他、包摂的成長の新たな障害となる高齢化や中間層拡大等の変化も発生。
- 包摂の多様な側面を推進するためには、APECが全体的政策及び措置を策定することが必須。本行動アジェンダは現在APECで実施されている作業に加え、新たな課題にも応えうる要素も追加する。2030年までにより包摂的なAPECコミュニティを実現することが全体の目標。

2. 行動アジェンダの3つの重要な柱

- 経済的包摂性：社会の全ての人々が、経済機会の情報取得・アクセスにおいて平等であること。
- 金融的包摂性：個人及び企業が、自らのニーズを満たす有益で入手可能な金融商品とサービスにアクセス・利用すること。
- 社会的包摂性：貧困と社会的排除の危険にある人々の社会参加条件の改善や公平性を向上するプロセス。

3. 行動アジェンダの目的

- 経済的包摂性：若者、高齢者、障害者の質の高い雇用、同一労働同一賃金の達成、所得増大の漸進的な達成・維持。
- 金融的包摂性：銀行、保険、金融へのアクセス能力を高めるための金融機関の能力強化、全ての人の金融リテラシー向上。
- 社会的包摂性：全ての人々がグローバルな機会を活用できるような能力の強化。

4. 優先分野

- 経済的包摂性：構造改革による新たな機会と雇用へのアクセス拡大。幅広い層の社会参画強化。地域統合、貿易・投資の深化、インフラ投資、特に質の高いインフラ投資の加速、インターネット・デジタルエコノミー、スタートアップ、起業の推進、第四次産業革命による課題の克服。
- 金融的包摂性：金融インフラ整備、零細・中小企業の信用へのアクセス拡大、流通チャネルや金融サービスプロバイダーのネットワークの多様化、特に遠隔地域及び農業にとって適切な金融商品・サービスの推進、デジタル金融の制度設計。
- 社会的包摂性：デジタル化の利点活用、教育の機会拡大、技術の負の影響に対処するためのシステムの策定、脆弱な人々の社会的エンパワーメント強化、社会のセーフティネット強化。

5. 行動アジェンダ実施のための行動

- APECの委員会、サブフォーラの作業計画や戦略に、関連がある場合に経済的・金融的・社会的包摂性を組み込むよう慫慂。APECフォーラは、2018年に本イニシアティブに沿う6つの新たなプロジェクトを提案することが求められる。
- APEC高級実務者（SOM）、財務高級実務者（FSOM）間の調整強化、多国間フォーラムや地域・世界機関との協力強化。
- 2018年以降の行動計画実施をAPEC実務者に指示。2024年に中間報告、2030年に最終的なレビュー。本イニシアティブはSOMレベルの経済・技術協力運営委員会がとりまとめを行う。

(了)